様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　９ 月 １９ 日現在

機関番号：８２１０４
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｈ０４３７５

研究課題名（和文）エチオピアの市場経済化による遊牧民の規範意識の変容と共同体脆弱化に関する計量分析

研究課題名（英文）Econometric analysis on changes in the norms of pastoralists and vulnerability of their communities under expansion of the market economy in Ethiopia

研究代表者
鬼木　俊次（Oniki, Shunji）

国立研究開発法人国際農林水産業研究センター・社会科学領域・主任研究員

研究者番号：６０２８９３４５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、エチオピアの牧畜民社会における市場経済の浸透により、牧畜民コミュニティーの伝統的な互助規範がどのように変容するのかを探った。まず調査地域の牧畜民世帯に滞在する文化人類学調査および予備調査を行い、研究の骨格を決めた。次に、牧畜民の規範意識を推定するためのサーベイ調査および行動経済学実験によって牧畜民の生計、行動、規範に関するデータを収集し、計量経済分析を行った。それにより、市場経済、人口増加、環境悪化の影響で牧畜社会の互助規範にしたがう人が減少していることが明らかになった。牧畜社会の伝統的な互助規範を強化するリスク緩和策の導入が求められる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
エチオピアでは、都市部で急速な経済発展が起こっているが、それが都市から遠く離れた地域の人々の伝統的な互助規範へどのような影響があるかほとんど知られていなかった。伝統的な互助は生計の安定のために重要な役割を果たしている。本研究は、市場経済の規範が遊牧民社会に浸透し、伝統的な食料シェアリングや互助の規範が弱まりつつあることを示した。その背景には干ばつの頻発化があり、家畜が減少することによって、食料シェアリングが減少し、生計リスクがさらに脆弱になる可能性が高い。これまで現地で国際援助機関が行ってきた食料や現金の給与の方策が逆効果であることを見いだし、援助政策の見直しが示唆された。

研究成果の概要（英文）：This study explores how the expansion of the market economy to pastoralist areas in Ethiopia alters traditional norms of reciprocity in pastoralist communities. First, we conducted an anthropological survey of pastoralists by staying at pastoralists’ houses and a preliminary study for economic survey in the target area and decided the framework of the study. Then, we conducted behavioral economics experiments and large-scale surveys to collect data on the livelihoods, behaviors, and norms of pastoralists to obtain qualitative evidence of the norms and social preferences of pastoralists. Using these data, econometric analyses were conducted. The results revealed that local people become less following the traditional reciprocity norms due to the development of a market economy, population growth, and environmental degradation. It implies a need to introduce risk-mitigating measures that reinforce traditional norms of reciprocity of pastoralist communities.

研究分野：開発経済学

キーワード：遊牧民　規範　互助　モラル　計量経済分析　文化人類学　牧畜　遊牧

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

サブサハラアフリカの牧畜地域では、自給自足をベースとしてきた伝統社会に市場経済という新たな考え方が浸透してきたため、モノやサービスのシェアと相互援助という伝統的な規範が薄れつつあると考えられる。さらに、気候変動の影響で、深刻な干ばつが頻発するようになった。伝統的な牧畜社会においては、家畜の乳や屠畜した家畜肉はコミュニティーの中でシェアするのが当然であった。家畜が多い豊かな牧畜民が、家畜が少ない貧しい牧畜民に無償であげるということで、貧しい人々が絶対的な貧困に陥るのを防いでいた。しかし、外的な環境変化により、他人に食料をシェアリングするよりも、自らの世帯の消費や販売を優先する圧力が増大する可能性がある。従来の従来の互助を重視する社会規範が薄れ、コミュニティー内のセーフティーネット機能が低下する可能性がある。そうなれば、貧しい牧畜民は絶対的な貧困から抜け出せなくなるという「貧困の罠」に陥るおそれがある。市場経済化が、こうした脆弱な環境にある人々の互助規範にどのような影響を与えているか十分に知られていない。

２．研究の目的

本研究の主な目的は、従来、市場経済から離れた生活が営まれてきたエチオピアの牧畜地域において市場経済化が牧畜民社会や牧畜民個人の規範に及ぼす影響を定量的に実証することである。特に、市場経済化の進展や環境変化により牧畜地域の互助の社会規範や利他性のモラルがどのように変化したかを明らかにする。

３．研究の方法

文化人類学の調査チームは、エチオピアアファール州中部Dubti郡の牧畜民６世帯に滞在して、牧畜民の家畜頭数、季節移動、食料消費、価値観の変化に関する調査を行った。経済学の調査チームは、アファール州およびオロミア州の広域的な牧畜民サーベイによって、地域ごとの牧畜民の市場アクセス、慣習、社会規範、互助の現状と経緯を調べた。詳細な予備調査により、調査の枠組みを構築し、エチオピアの2州4郡計9村でランダムサンプリングによって選ばれた792世帯で聞き取りおよび経済実験を行った。調査データを用いて、計量経済分析モデルにより、規範と社会経済、自然環境との関連性について分析を行った。詳細な定性的調査の結果と定量的な広域調査結果を合わせて実態の把握と今後の方向性について考察した。

４．研究成果

（1）文化人類学調査

アファール牧畜民は、市場経済の影響により、食料摂取は、乳中心の食事からコムギパン中心の食事へと変貌し、その結果、栄養摂取不足に陥っていることが分かった。また、気候変動の影響とみられる連続的な干ばつにより牧畜民の家畜頭数は近年急激に減少している。最近 20 年間において、年間降水量が平均降水量よりも少ない年が多発し、降水の分散が減少する傾向にある。それにともない、河川などの水源を求め、牧畜民の移動が長距離化する傾向にあり、それが牧畜民の世帯の多くが定住化する一因となった。家畜分与という資源共有の機会が少なくなったた

め、人々の互助関係は脆弱になっていることが明らかになった（図 1）。

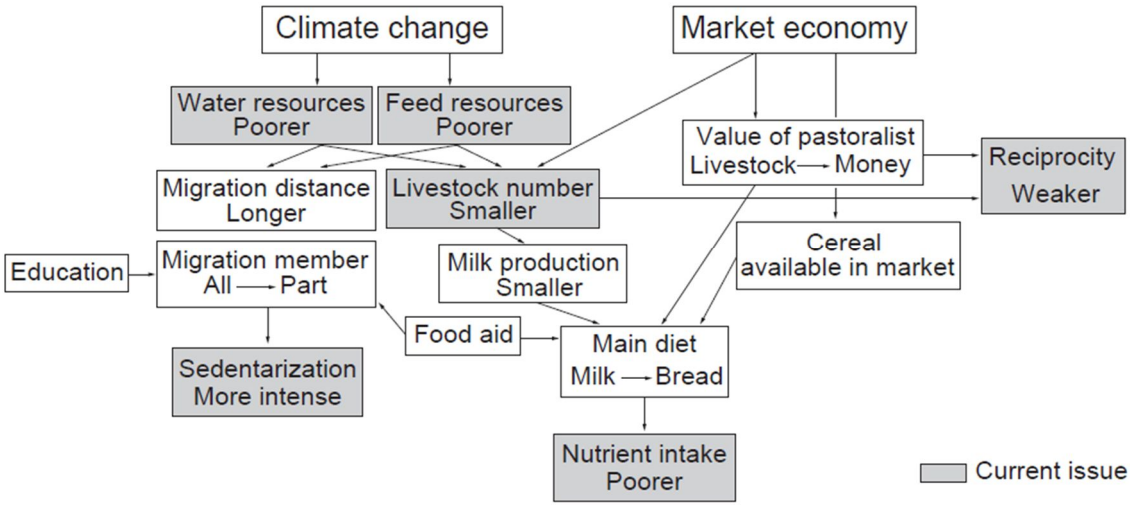

図１　気候変動および市場経済がアファール牧畜民の生計に及ぼす影響

（出典：Hirata & Oniki, 2022, Journal of Arid Land Studies 32,p.10）

（2）経済学調査

経済調査では、都市からの世帯までの距離や市場に行く頻度が市場経済の影響に関係すると仮定し、そうした市場へのアクセスの効果を推定したところ、牧畜民の互助規範に多面的な影響があることが分かった。世帯間の食料シェアリングについては、都市から20km未満の地域では20km以上離れた地域よりも多くの世帯で牛乳のシェアリング減少している（図2）。牛乳のシェアリングが減少したのは世帯間の関係の希薄化にもよるが、家畜頭数がシェアリングとプラスの相関があることから、家畜頭数の減少によってシェアリングが減少したと考えられる。

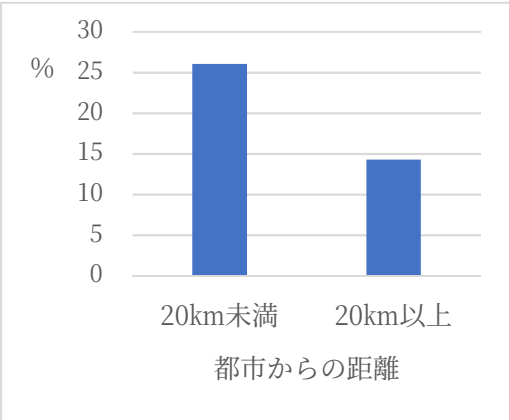

図２　過去２０年間で牛乳のシェアリングが減少した世帯の割合

（出典：本研究のエチオピア牧畜民調査結果）

人々の利他性を測る独裁者ゲーム実験の結果、地域、宗教、家畜保有数、世帯特性等をコントロールした場合に、市場アクセスが良いほど他人への金銭のシェアリングは少なくなることが明らかになった。これは市場の影響が利他性にマイナスに働くことを示している。農業を行う牧畜民はシェアする金額が比較的高い。農作業、灌漑、出荷などの共同作業を通じて利他性が高くなった可能性がある。

エチオピアの牧畜民は自然災害リスクに対処するため資源の平等な配分を行うという社会規範がある。一方、市場経済の元では、個人の能力や努力による生産性によって得られる収入が決

まるという前提がある。平等主義か成果主義かのいずれを選択するか調べるモラルジレンマ問題の調査を行ったところ、市場アクセスが悪い人（遠隔地に住む人、市場へいく頻度が低い人）のほうが配分の平等性を求める傾向がある。市場の影響で、牧畜民の考え方が伝統的な平等主義から市場志向型の成果主義へ社会規範が変わることが示唆された。

人々の互助にはさまざまな考え方がある。特に、貧困者など最も困窮した人をまず援助すべきなど動機や意思を重視する義務論的な考え方か、援助の動機や意思よりもその結果が重要と考える帰結主義的な考え方は大きな対立軸である。モラルジレンマの実験を行ったところ、大多数が帰結主義的判断をするが、市場アクセスが悪いほど帰結主義的であることが分かった。市場経済や都市化が義務論的判断に正の影響を与えることが示唆された。

また、コミュニティーの公共財供給に対する労働の意欲は金銭的なインセンティブを与えるとかえって減少するというモティベーション・クラウディング・アウトの現象が起こることが分かった。最初に 87%の回答者が無償でコミュニティーの作業に参加するとしていたが、わずかな金銭が与えられる場合になると参加者は 62%へ減少した。多くの人がわずかな金銭を放棄するかわりにコミュニティーの仕事をしないことを選択した。この減少幅は都市近くで有意に大きい。こうしたことは都市の影響により、クラウディング・アウトが助長されることを示している。

（3）まとめ

本研究では、牧畜民世帯への住み込みによる定性的な人類学調査および広域的調査による調査データを用いた計量経済分析を行い、エチオピア遊牧民の規範と社会経済、自然環境との関連性について実証的な分析を行った。市場経済化の進展や環境変化により牧畜民社会や牧畜民の互助の社会規範が減退する可能性が示された。エチオピアの牧畜地域における伝統的な社会は、強い平等主義的かつ帰結主義的規範に基づく互助性があるが、市場経済的な規範の影響を受けて能力に応じた個人主義的な規範に変わりつつある。互助性が低下することは、大きな自然災害リスクに直面する牧畜民の生計上のリスクが増大することを示唆する。モティベーション・クラウディング・アウトが認められるため、金銭的インセンティブの供与など従来の介入はコミュニティーの互助を弱めるおそれがある。伝統的な互助規範の基盤を用いたリスク緩和策を導入することにより、従来の社会規範を維持しながら市場経済化を進めることができると考えられる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　3件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 Masahiro Hirata, Shunji Oniki,	４．巻 32
２．論文標題 Transformation of Afar pastoralism with climate change and a market economy	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Journal of Arid Land Studies	６．最初と最後の頁 1～13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14976/jals.32.1_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 平田昌弘	４．巻 -
２．論文標題 牧畜民の発酵乳加工とその利用	５．発行年 2022年
３．雑誌名 横山智編著『世界の発酵食をフィールドワークする』農山漁村文化協会	６．最初と最後の頁 64～80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Oniki Shunji、Berhe Melaku、Negash Teklay、Etsay Haftu	４．巻 33
２．論文標題 Communal land conservation in northern Ethiopia: The relationship between urban area access and individual and social norms	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Land Degradation & Development	６．最初と最後の頁 2757～2768
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/ldr.4303	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 Etsay Haftu、Oniki Shunji、Berhe Melaku、Negash Teklay	４．巻 14
２．論文標題 The Watershed Communal Land Management and Livelihood of Rural Households in Kilte Awlaelo Woreda, Tigray Region, Ethiopia	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Sustainability	６．最初と最後の頁 13676～13676
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/su142013676	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Negash Teklay、Oniki Shunji、Berhe Melaku、Etsay Haftu	4．巻 37
2．論文標題 Household Communal Resource Use and Willingness to Supply Extra Free Labor Days to Conserve Communal Land in Northern Ethiopia: Evidence from the Kilte-Awlaelo Woreda of the Tigrai Region	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Journal of Forest Economics	6．最初と最後の頁 319～345
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1561/112.00000549	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 Masahiro Hirata
2．発表標題 Inter-regional comparisons of milk cultural system to analyze diffusion & transition of culture in the Tibeto-Himalayan region
3．学会等名 16th Seminar of International Association for Tibetan Studies（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 鬼木俊次　メラク・ベルヘ　テクライ・ネガシュ
2．発表標題 エチオピア北部牧畜地域における市場経済と社会規範
3．学会等名 国際開発学会 第20回春季大会（国内学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 陳妹凝、加賀爪優
2．発表標題 The Structural Decomposition Analysis of the impacts of environmental Conservation Program on the Regional Economy of Guizhou, China: Economic structure change and rural labor migration
3．学会等名 環太平洋産業連関分析学会
4．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	平田　昌弘 (Hirata Masahiro) (30396337)	帯広畜産大学・畜産学部・教授 (10105)	
研究分担者	加賀爪　優 (Kagatsume Masaru) (20101248)	京都大学・学術情報メディアセンター・研究員 (14301)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
エチオピア	サマラ大学			